

## 連続性のある多様な学びの場の充実

### ～船橋市立船橋中学校の通級指導教室の実践～

県総合教育センター特別支援教育部

#### 1 はじめに

通級による指導とは、通常の学級で教科等の学習をしながら、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする特別な指導のことである。

本県でも、小・中学校で通級による指導を受けている児童生徒数は年々増加しており、平成30年度からは、高等学校における「通級による指導」も開始された。今年度、新たに加わった県立袖ヶ浦高等学校を含め、3校で実施される等、連続性のある「多様な学びの場」の充実が図られているところである。

本稿では、昨年度の「文部科学省委託事業・千葉県教育委員会研究指定校実践研究報告会」で、船橋市立船橋中学校の平石弘教諭から報告された取組について紹介する。

#### 2 船橋市立船橋中学校の通級による指導

##### (1) 支援内容

- ① トーク（ホワイトボード使用）
- ② SST                      ③ 教科支援
- ④ 進路学習

指導場面では、生徒の興味・関心のあるもの・得意分野の中から題材を設定し、自己肯定感を上げていく。一人一人に応じたより良い指導を行うために、小学校（通級指導教室）の引継ぎ資料や在籍学級での様子を基に実態を把握し、得意分野・苦手分野の整理を進める。その上で、身に付けさせたい力と支援方針（手立て）を決定する。

##### (2) 「通級による指導」の実践の作成

「個別の指導計画」とは別に、一つ一つの活動内容に対し、具体的な手立てと指導の意図を記した「通級による指導の実践」を作成し

ている。さらに、高等学校への引継ぎとして、生徒の診断名・特性と3年間の様子・今後の課題を書き加えた「連絡票」を作成し、送付している。

##### (3) 高等学校への引継ぎについて

###### ① 引継ぎ資料（H30年度末）

- ・ 引継ぎのための連絡票（在籍校担任作成）
- ・ 3年間の様子及び「通級による指導」の実践（通級担当作成）

※高等学校への引継ぎは、基本的には在籍校が行うが、依頼に応じて通級担当が同席したり、直接連絡を取り合ったりするケースも増えてきた。

###### ② 引継ぎ後の生徒の実態把握

- ・ 電話で保護者、本人との聞き取り調査
- ・ 進学先への訪問

H30年度：公立高校5校 訪問

進路先に直接伺うことで、生徒の実態把握や現在の困り感、支援の共通理解を高等学校の先生と図ることができた。

R元年度：公立高校7校 訪問予定

3年生全員が全日制高校に進学した。

（公立8人、私立2人）

※研究指定終了後も引き続き、中・高の引継ぎ・連携を積極的に行っていきたい。

#### 3 おわりに

今後も、通級による指導をはじめ、連続性のある多様な学びの場の充実を図り、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばせるよう特別支援教育の推進を図っていくことが求められている。